



★ワンポイントアドバイス★

②はストレスに関する論説文。「ストレスの影響」→「過労死問題」→「ストレスを減らす取り組みや商品」という段落ごとの流れを捕らえよう。

<国語解答> 《学校からの正答の発表はありません。》

- ☐ 問一 1 探(って) 2 あこが(れ) 3 生半可 4 かいもく 問二 ア 4  
 イ 1 ウ 3 エ 5 オ 2 問三 幻想 問四 (例) 大勢の人が選ぶ人気のある語学科ではなく、地味で人気のないイタリア語学科をあえて選んだ点。  
 問五 (1) (例) 小さくなっている様子。 (2) (例) イタリア芸術への憧れや敬意を口にするクラスメイトに気後れを感じたから。 問六 (例) その名にふさわしく、海の向こうへ行ってみたみたいという憧れに導かれて進路を決めたということ。 問七 2  
 問八 (例) イタリアの古典文学を原書で読む作業は、重く厳しいものであると予感したということ。
- ☐ 問一 1 凝縮 2 鮮(やか) 3 たちう(ち) 4 ひつじょう 問二 X 3  
 Y 1 問三 ア (番号) 4 (漢字) 面目躍如 イ (番号) 3  
 (漢字) 当意即妙 問四 a 3 b 2 c 4 問五 1 問六 (例) 道長は、公任をしのぐ大権力者になった。 問七 (例) 道長の詠んだ歌は、道長の負けじ魂を実に巧みに表現した歌であるということ。 問八 (例) 大政治家である道長に目をかけられたことに感激したから。 問九 (例) 道長の豪胆さを物語るエピソードは、あまりにもできすぎていて、実話としての信ぴょう性に欠けるということ。
- ☐ 問一 作品を見る 問二 (例) 画家フェルメールも自分のスタイルを見いだすまでにはさまざまな試行錯誤があったということ。 問三 (例) 日常を切り取って絵の題材にすること。 問四 (例) 名画が描かれるまでの画家自身の葛藤や迷いを、時間軸に沿って考え、理解するということ。
- 問五 ひねり出し た の か を 知り たく なる  
 動詞 助動詞 助詞 助詞 助詞 動詞 助動詞 動詞  
 連用形 連体形 連用形 連用形 終止形

<国語解説>

- ☐ (随筆一漢字の読み書き、副詞の用法、脱語補充、文脈把握、内容吟味、要旨)
- 問一 1 「探」の訓読みは「さが(す)」「さぐ(る)」。音読みは「タン」。熟語は「探査」「探勝」など。 2 「憧」の訓読みは「あこが(れる)」。音読みは「ドウ」「ショウ」。熟語は「憧憬」など。 3 「生半可」は、物事がいいかげんで、十分でないこと。中途半端なこと。「生」を使った熟語はほかに「生意気」「生兵法」など。 4 「皆目」は、まるきり、まったく、という意味。「皆」を使った熟語はほかに「皆勤」「皆無」など。訓読みは「みな」。
- 問二 ア 直後の「知れている」に接続する語としては、「たかが」が適切。「たかが知れている」は、どの程度かがだいたいわかる、大したことない、という意味。 イ 直後の「前時代的」を修飾する語としては、どう見ても、という意味の「いかにも」が適切。その映画のすべてが、ま